

報道関係者各位

TBM、注力事業であるカーボンリサイクル事業の紹介動画を公開
～脱炭素から「活性炭」の時代へ、地球規模の課題に挑む新たな資源循環のビジョンを可視化～

株式会社 TBM（本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO：山崎敦義、以下 TBM）は、現在、経営資源を集中し、次なる成長を牽引するカーボンリサイクル（CCU^{*1}）事業の概要と未来像を可視化した事業紹介ムービー『【事業紹介】TBMのカーボンリサイクル事業：脱炭素から「活性炭」の時代へ』を公開したことをお知らせします。

*1 CCU：Carbon Capture and Utilization(CO₂の回収・再利用)



■ 5分でわかる TBM のカーボンリサイクル事業の未来：動画の見どころ

本動画は、CO₂を削減すべき対象ではなく価値ある資源として活用する「活性炭」のコンセプトに基づき、当社のカーボンリサイクル事業の仕組みや市場環境、事業の優位性などを紹介するものです。

動画 URL：<https://youtu.be/YIXzbM03qag>

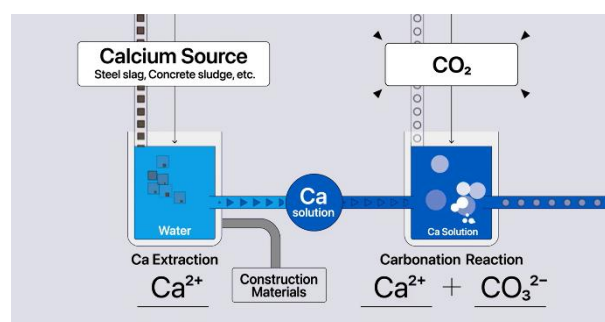
・カーボンリサイクルの市場環境

(2050年に約71兆円へと急成長する市場)



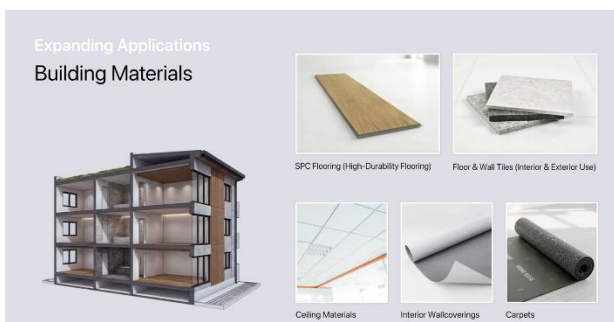
・CCU 炭酸カルシウムの製造プロセス

(製鋼スラグなどの廃棄物由来のカルシウムを活用)



・ 建材業界における用途

(CO₂を長期間固定化する床材やタイル等の建材)



・ カーボンリサイクル事業の提供価値

(「CO₂固定化」「廃棄物リサイクル」「地産地生」)



■ 動画公開の背景：なぜ今、TBM がやるのか？

・ 2050年「71兆円」の巨大市場とカーボンリサイクルの重要性

世界中で気候変動対策が急務となる中、あらゆる産業においてサプライチェーン全体での脱炭素化が喫緊の課題となっています。その中で、国際エネルギー機関（IEA）の見立てでは、2070年のカーボンニュートラル実現に向けたCCUS*²によるCO₂排出削減への貢献度は約19%と予測されており、非常に重要な技術領域として位置づけられています。このCCUSのなかでも、地球温暖化の原因となるCO₂を「負債」から価値ある「資源」へと転換するCCUの技術を活用し、CO₂を原料とした炭酸カルシウムの生成及び製品の製造・販売を行うのが弊社のカーボンリサイクル事業です。世界的な脱炭素化の潮流を受け、CO₂を原料とした製品の2050年における世界市場規模は約71兆円*³に達すると見込まれています。

・ 自社の特許基盤により、国の想定を「15年前倒し」で実用化

TBMは祖業である「LIMEX」事業を通じて培った、炭酸カルシウムの粒形コントロール技術、成形技術、混練技術に関する250を超える特許を有しています。こうした素材開発・製品化の技術基盤を活用することで、経済産業省が策定する「カーボンリサイクルロードマップ」の想定を15年前倒しする形でいち早くカーボンリサイクル製品の実用化を実現しています*⁴。

・ CO₂排出の37%を占める「建設業界」の課題を解決

特に世界のエネルギー由来のCO₂排出量のうちおよそ37%を占める建設業界では*⁵、建材の製造や施工等に伴う「エンボディド・カーボン（内在炭素）」の削減が世界的な課題となっています。こうした問題も背景に、TBMはCO₂を長期間固定化できる建材分野に現在注力しており、独自のカーボンリサイクル床材などの製造・販売を行っています。すでに国内イベントでの採用実績があるほか、海外でのCCUプラント建設に向けたプロジェクトも進行中であり、国内外で具体的な社会実装が始まっています。

*² CCUS : Carbon Capture, Utilization and Storage (CO₂の回収・再利用・貯留)

*³ 株式会社富士経済：「カーボンリサイクル/CO₂削減関連技術・材料の世界市場を調査」(2022年7月発表)

*⁴ 経済産業省：「カーボンリサイクルロードマップ」(2021年7月改訂)

*⁵ UNEP (国連環境計画)：2022 Global Status Report for Buildings and Construction

■ 今後の展開

TBM は、素材開発のビジネスから始まり、時代のニーズを見据えて事業を多角化してきました。現在は、これまで蓄積された技術知見や事業アセットを結集し、カーボンリサイクル事業および高機能再生材「CirculeX」事業へ経営資源を集中させています。カーボンリサイクル建材などの製品の社会実装やプラント建設による「地産地生」モデルの構築と、独自開発したバージン材を上回る強度*6を持つ再生材の製造・販売により資源循環を加速させ、世界の炭素・資源循環のインフラを担う「カーボンソリューション企業」としての歩みを推進してまいります。

*6 算出方法：JIS K 7171（曲げ強度）および JIS K 7111（シャルピー衝撃強度）に準拠した試験での評価結果（自社調べ）。物性値は代表値であり、保証値ではありません。

対象グレード：「高強度+低臭気グレード」、「高強度グレード」、比較対象：バージン PP（平均値）

■ カーボンリサイクル事業の詳細・お問い合わせ

本動画でご紹介した TBM のカーボンリサイクル技術の仕組みや、CO₂を固定化した商材のラインアップ、および国内外でのプロジェクトの最新進捗については、以下のページをご覧ください。

<https://tb-m.com/business/ccu/>

[以下のようなパートナー企業様を募集しています]

- ・ 事業を行う過程で排出した CO₂の再利用を検討されている事業者様
- ・ 住宅・建設分野で新たな脱炭素の取組みを検討されている設計事務所やデベロッパーのご担当者様
- ・ カーボンリサイクル業界への出資や協業を検討されている投資家・企業様

※具体的な商談や資料請求、取材のご依頼はお問い合わせフォーム (<https://tb-m.com/contact/>) よりご連絡ください。

■ 株式会社 TBM

代表者 : 山崎 敦義

所在地 : 東京都千代田区有楽町 1-2-2 15F

設立 : 2011 年 8 月

資本金 : 1 億円（資本準備金含み、120 億 3546 万円 / 2024 年 12 月時点）

事業内容 : 環境配慮型の素材開発及び製品の製造、販売、資源循環を促進する事業等

URL : <https://tb-m.com/>

*本リリースに記載された会社名および商品・サービス名は弊社の商標または登録商標です。

*本リリースに記載された内容は発表日現在のもので、その後予告なしに変更されることがあります。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 TBM コミュニケーション本部 広報・マーケティング部 担当：波多野、木下

CCU 推進チーム 担当：小野

メールアドレス：pr@tb-m.com お問い合わせフォーム：<https://tb-m.com/contact/>